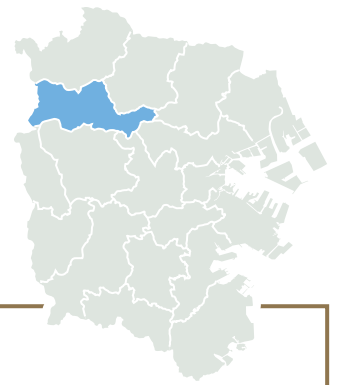




緑区



実施までの準備

昨年度は、多職種に向けてACPについての知識の普及を図った結果、一定の理解はすすんだが、各専門職がそれぞれの立場でどのように実践につなげていくかが課題として残りました。そのため、今回は事例検討を取り入れて、多職種が顔を向き合せて、若年のがん患者に係るケースについて検討し合う場を設けました。



実施概要

研修タイトル 令和6年度 緑区ACP人材育成研修

実施方法 会場での開催

日時 令和6年11月27日(水) 14時～16時

場所 緑区役所 4階4AB会議室

内容

- ▶ 講義「ACPの理解について」(地域包括支援センター職員)
- ▶ 事例検討「グループに分かれて若年のがん患者に係る事例検討、ACPについての理解を深める」
- ▶ 全体総括(あおいクリニック 院長 浅井 拓雄 氏)

参加者 50人



内 訳

- ①訪問看護師(9人) ②歯科医師(2人) ③薬剤師(2人) ④行政職員(5人)
- ⑤ケアマネジャー(16人) ⑥ホームヘルパー(3人) ⑦福祉用具相談員(2人)
- ⑧地域包括支援センター職員(8人)
- ⑨その他の職種(3人:区在宅医療相談室管理者、通所介護管理者、小規模多機能居宅介護管理者)



参加者の意見

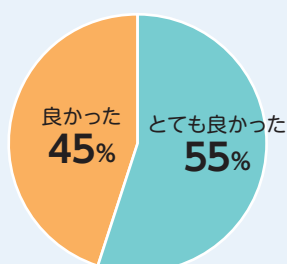
- ACPは何度も行うことが大切で、状況が変わったタイミングで行うことが良いと思いました。きっかけを自分たちがつくっていきけるように努めたいと思います。
- ACPを実践するためには、多職種の連携がさらに必要だと思いました。
- 経口摂取が続けられるための歯科の介入の大切さを知りました。
- 他の職種の方と同じテーマについて話し合うことだけでも、お互いの職種での立ち位置が理解し合える良い機会になりました。顔の見える関係の構築は大切だと思いました。
- ご本人と家族のコミュニケーションが上手く取れていないケースの多職種連携について考える機会となり、現場に活かしていきたいと思います。

研修の成果

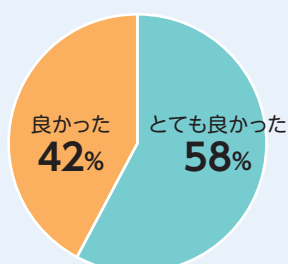
参加者のうち38人からアンケート回答を収集。講義、事例検討とも全員から「良かった」以上の回答でした。うち、「とても良かった」は、講義55%、事例検討58%。研修の内容を実務に活かせるかについては、「非常に活かせる」42%、「活かせる」55%。前述の参加者からの意見内容も踏まえると、ACPの取組を実践するための素地を築くことができたと考えます。

アンケート結果の一部 n=38

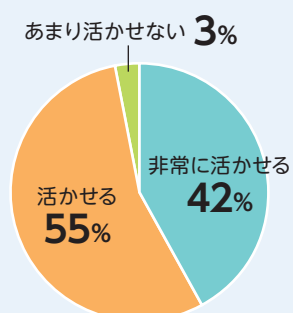
講義「ACPの理解」についての満足度



事例検討についての満足度



研修の内容は、明日からの実務に活かそうですか



今後の方向性と次年度に向けて

ACP研修については、令和4年度に医療局のパッケージ研修、令和5年度に区内の医師の講義と「もしばなゲーム」を実施し、専門職に対する知識の普及を図りました。本年度は事例検討により、実践につなげるための取組を行うことができ、専門職向けの普及啓発は一定の成果を上げることができました。次年度は、引き続きACPをテーマに、病院と在宅医療・介護関係者による意見交換会等を実施し、多職種間の「顔の見える関係づくり」に資する研修を検討しています。また、「もしも手帳」の市民向けの普及啓発を、消防署とも連携しながら取り組みたいと考えています。